

福祉分野のスペシャリストを目指して ～作業学習「福祉班」での取組～

県立鹿児島高等特別支援学校
教諭 馬込 浩一

はじめに

本校は、軽度の知的障害者の社会自立を促すために、職業教育を中心とした教育を行う高等部のみの特別支援学校です。卒業後の社会自立を目指して、「作業学習」を中心に、各教科等のバランスを考慮した教育課程を編成しています。その中でも「作業学習」は、卒業後の就労につながるように八つの作業班による学習を行っています。働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な態度や技能等を実践的・総合的に学習します。ここでは、私が担当する「福祉班」での取組を紹介します。

福祉班の授業の紹介

福祉班では、社会福祉への興味・関心を高めるとともに、高齢者や障害者の介護に必要な基本的な知識と技能を習得します。また、高齢者福祉施設での体験学習等を通して学習した内容を実際に活用できるように取り組んでいます。

高齢者体験学習

福祉サービスを必要としている人々の気持ちについて理解を深めるために、アイマスクやサポーター等をつけて校内を歩く高齢者疑似体験、介助される側の高齢者役になり、考えながら適切な対応の仕方を学ぶロールプレイ等の実践的な学習活動に取り組んでいます。



【高齢者疑似体験】

介護技術の習得

日常生活に必要なコミュニケーションの取り方や実際の介護内容・方法について、介護人形や車いす、ベッド、ポータブルトイレ等を使いながら学びます。入浴介助技術については、鹿児島国際大学の介護用入浴設備をお借りし、介護者役と利用者役の両方を体験しながら習得を図っています。



【シーツ交換】

生徒たちは、この実習をとっても楽しみにしており、機械浴槽の安全な使い方やプライバシーに配慮した介助の仕方について意欲的に学習しています。



【車いすでの介助】

進路に向けた取組

実際の現場においては、本校で培った働くために必要な力を実践し、働くことの意義、職場での人間関係や健康な生活、決まりを守ることの大切さを学びます。事業所の協力を得ながら、実習の機会を多く設定し、実践的な力を身に付けていきます。

福祉班では、主に高齢者福祉施設等での実習を通して、実際の介護について体験することで基本的な知識と技能を身に付けます。

産業現場等における実習

実際に高齢者との接する機会として高齢者福祉施設等に協力いただきながら学習に取り組んでいます。現場での介護を体験しながら知識・技能・態度を学びます。実習中はカンファレンスを実施し、事業所の方に評価を頂きながら実習に取り組みます。また、実習終了後は、その後の評価と課題を学校で振り返りながら改善を行い、介護技術や態度を高めていきます。自己のスキルアップにつながる貴重な体験の場となっています。

デュアルシステム

これは、「産業現場等における実習」とは別に、年間を通じて、授業の中で近隣の高齢者福祉施設に出向き、短いスパンで実践・反省・改善を繰り返す「働きながら学ぶ、学びながら働く」システムです。職場で実際に仕事をしながら、働くために何が必要か、自ら気づき、考える機会として捉えています。

技能検定・資格取得

自己のスキルアップに向け努力する態度を養うとともに、働くことに対する自信と意識を高めることを目的として、1年生から3年生までの各学年で校内技能検定を実施します。検定課題は1年生はベッドメイキング、2・3年生は利用者の体位変換を行いながらのシーツ交換です。この内容は鹿児島県障害者技能競技大会の種目でもあり、技能向上を目指し本校の生徒たちも、この大会に毎年参加し、入賞を果たしています。また、介護職員初任者研修資格を取得するために休日や長期休業中に講習を受講する生徒もいます。

おわりに

卒業生が働く福祉現場では、利用者ニーズの多様化、業務内容の変化などが挙げられています。これからも本校福祉班では、学び合う、高め合う、助け合うの校訓の基「場面に応じて自ら考え、判断し、主体的な行動ができる生徒」、「相手の気持ちを大切に安全で思いやりのある介助ができる生徒」の育成を目指していきます。